

## セルリの栽培(一)

大 岩 金

## 緒 言

セルリの風味に就ては、既に皆様が充分御承知の事でありませう。さうして多分御嗜好になることと思ひますが然し最初の食膳におきましては彼の蕃茄に於てお味はひになつた時と同様の體驗を得られた事でありませう。

抑も本邦に於けるセルリ栽培の始められましたのは明治維新頃でありませう。米國におきましても比較的近代のものでありまして南部イングラント及びヨーロッパ大陸の所々の沼、澤等の天産物でありましたものを改良栽培したものであります。

天然の状態では二年生植物でありますが食用として栽培する場合は普通一年生のものを用ひます。その種子は非常に小さく一オンスに六萬五六千粒を數へる位でありまして繖形となつて群集します。尙野生の状態のセルリは辛い刺戟性の香氣を持つて居りまして薬味として用ひられる位のものであります。改良されたものが即ち御承知の通りの肉質で心地のよい香味をもつてゐるのであります。

米國に於きまして營利的に大規模の栽培をして居りますのは湖水地方とか泥炭、沼等の開拓された排水のよい場所でフロリダとかカリホルニヤ等

が最も進歩した栽培をしてゐるとの事でありませす。

尙一言付け加へておきたい事はこのセルリは食物價値はあまりないかも知れませんが衛生によく神經をつくる作用があるといひます。又秋季から冬季にかけて青物の比較的少ない期間に供され肉食の際に用ひて一層美味で消化を助けます。現今米國に於てはクリスマスの七面鳥にブジ梅ソースが必ず従物とされて居りますと同時に極新鮮なセルリが付け加へられてゐることでありませす様に重要視されて居ります。

前置は此位に致しましてその栽培法を以下順を逐つて少し詳細に記述致したいと思ひませすがその栽培法にも米國式の大規模のものと自家用としての極小規模のものと二つありまして自らその方法を異にしますがここでは極小規模の栽培方法に就てのみ申し上げます。

#### 栽培に適する氣候及び土壤

氣候も土壤も小規模に栽培する場合は殆ど如何様な條件にでも栽培の不可能なことはないといふ事が出来ませう即ち自家用として小規模に栽培する時は雨覆、日除、土壤の特別な用意及び灌水等の世話が自由に施行されますが大規模となりませすとさうは參りませんからセルリを栽培するに適當した條件の整つた風土を撰定するを生ずる譯であります。そこで理想的風土としましては、比較的乾燥した空氣及び冷夜で、蒸暑の天候は生育を柔軟にしまして病蟲の被害を蒙り易いのであります。それですから日中は日照が相當に多く暖かく夜間は冷涼な事が莖のバツ／＼した上等なものが出る條件の一つであります。即ち晩秋から初冬にかけての氣候が最も好ましいのであります。土質の理想としましては砂質の壤土でありまして深土でありたいのであります。即ち肥沃の土壤

である程好い結果が得られます。然し小規模の場合には如何に肥沃な土壤でも施肥と排水に注意する程好結果が得られません。

この作物は水分を要求するくせに冷濕の被害を受け易い作物であります。

#### 定植畑の準備

寒地におきましては秋から好く耕して冬季中充分に寒氣に晒して置くのであります、そしてセルリを作る畑は其の前作として豌豆、煮豆等の如き豆科の作物を撰びまして其の後を深耕するのであります。即ち前作物を決定する目的は後作たるセルリの爲に多くの肥料を残す様な作物が望ましい事でありますと同時にセルリを定植する迄に前作物が收穫されてゐるといふ事も必要な條件であります。御承知の通り豆科の植物は其の後へ多くの窒素肥料を残します。

暖地におきましては寒地の場合と次の點が異なる

つてゐるのであります。即ちセルリは晩夏或は秋の間に定植されますから畑は夏の間に準備するものであります。凍結しませぬ地方で冬季に無毛地としておくのは肥料の損失を來します、若しセルリ定植前に準備し得られる様な場合、つまり作る可き作物の無い様な状態の場合は「レンゲ草」「クロ「バ」」等を播種しておき土地準備の際勦き込むのが得策であります。

若し又冬季中セルリを作付してあつた様な場合は早春の間は蕃茄、胡瓜或は豌豆を作付するのが好都合であります。

右の様な具合にして深耕した後は平にならすのであります。ならしたら定植するに都合の好い様に一定の條間と株間に從ひ穴を穿けます。それは棒を尖らして押し込めば出来る譯で條及び株は正しくする爲に綱に一定の間隔に標を付けたものを張るのが便利であります。

## 肥料

肥料の事でありますが何作物を作りますにも其の土壤と其の作物の含有してゐる成分を知れば施肥すべき要素と量とを知る事が出来る譯ではあります。然し肥料として植物が利用し得られる要素は水に可溶性のものである事や又土中に一時不溶解性の形になつて貯藏養分として炭酸瓦斯、水、酸素及び土中のバクテリア等の作用で植物に利用される様になるものであります。其の他種々の事情がありますからさう理論通りにもゆかぬ場合があります。ありますから何肥料をどれ丈施したら好いかをその土地に依つて定めるには肥料を種々な割合に施してセルリの生育の状況を見て然る後に確定するのが最も確實であります。ところが純理論としましては更地である場合には一般に施肥することなくして二〇——二〇〇回位は栽培が行はれるものであります。それは土中の様藏養分が分解さ

れる結果である事は明かであります。然して更にそれには作物の爲には直接肥料とならない石灰の施用とか深耕とか腐植物の添加とか潤地なれば排水法を講ずる等の方法をとるのであります。

尙セルリは施肥量の多い事は收穫をある程度迄高め得るといふ様に多量の肥料を要求するものでもあります。特に小面積で集約に行ふ場合には尙然りであります。

さて概して土壤中には所謂肥料成分なるものは相當に含有してゐるものであります。がそれでも窒素、磷酸、加里等は缺乏してゐるか或は甚だ少ないとか又は不溶解性である場合があります。是等の要素を施肥する必要があるのであります。ところがここに確定的の施肥量或は要素を示す事の不可能なことは土壤の相違することと同時に變更することが必要である場合があります。明でありますから實地家に就て其の土地に適する様鹽梅するのが最も策を得た方法であります。

主なる肥料に就きましては次號に少し記述致します。